

日本向老学学会ニュースレター

Association of Active Ageing
NO.57 2014・3・15 発行

第15回日本向老学学会学術総会の開催まで2ヶ月あまりとなりました。会員の皆さまのご支援、ご協力をよろしく申し上げます。

【1】 第15回日本向老学学会学術総会のお知らせ

- 1) 日 時 2014年5月18日(日) 午前10時30分～午後4時45分
- 2) 場 所 名城大学 天白キャンパス共通講義棟南館201・202 講義室
名古屋市天白区塩釜口1丁目501番地 TEL(052)832-1151
地下鉄「塩釜口」駅下車、1番出口徒歩約8分
- 3) 参加費 一般 1,000円 学生 500円 会員 無料
- 4) テーマ 超高齢社会を生きる～高齢者の罹りやすい病気の予防と対策～
- 5) 要申込み 申込順300名

.....

<総 会> 午前10時30～11時30分(10時10分受付)

202 講義室

議題 2013年度事業報告及び会計報告
2014年度事業計画及び予算
事務局の変更
学会誌「研考」13・14合併号
その他

<学 会> 午後1時～4時45分(12時30分受付)

201 講義室

テーマ 「超高齢社会を生きる～高齢者に罹りやすい病気の予防と対策」

1:00～1:10 日本向老学会会長 梅尾良之

1:10～1:30 ヴァイオリン演奏 内山桂一(医学生)

1:30～2:45 基調講演 「超高齢社会をいかに健康に生きのびるか、
高齢者の罹りやすい病気の予防と対策」

講師 高橋 信雄 高橋ファミリークリニック院長・日本向老学学会理事

プロフィール：昭和 39 年名古屋市生まれ、平成 2 年名古屋市立大学医学部卒業。日本糖尿病学会専門医、日本消化器病学会専門医等を取得。平成 16 年緑市民病院を辞し、“安らぎのある、癒される医療を笑顔あふれるクリニックで”を理念とした高橋ファミリークリニックを開設。クリニックでは糖尿病診療を中心に漢方鍼灸診療、食養生（マクロビオティックス、糖質制限食）、分子整合栄養医学、コーチング等とりいれている視点から患者さんを治療し、癒しています。

3:00～4:30 シンポジウム

「超高齢社会を生きる～高齢者に罹りやすい病気の予防と対策」

コーディネーター：高橋信雄、特別コメンテーター：岡崎宏紀（薬剤師）

パネリスト：市川雅美歯科医師.....「歯科医の訪問口腔ケア」

安本旭宏理学療法士.....「いつまでも自分の足で」

岡田友佳子ラフタ ヨガ講師.....「あなたの人生は最後まであなたのため」～なぜ笑う門には福来るのか？

4:30 事務局今後の展開

4:45 終了

【2】2014 年度の会費納入のお願い

払込用紙を同封しますので3月 25 日までにお振込みくださいますようお願いいたします。なおいきちがいの場合はご容赦ください。

念のため郵便局払込 口座記号番号 00890 - 1 - 129917
加入者名 日本向老学学会
年会費 5000円

【3】向老学サロンの報告と予定

2014 年 1 月より第 4 土曜日午後 2 時～4 時になりました。

場所はあいち NPO 交流プラザ（052-961-8100）ですが、変更する場合がありますのでご参加の方は豊田秀雄（0568-83-1390）までご連絡ください。

1) 報告

2014 年 1 月 25 日（土） おおぶボランティアフェスティバルへ参加
大府市勤労文化会館 午後 0 時 10 分～4 時

大府市社会福祉協議会の主催のフェスティバルは高石ともや歌手のコンサートとボランティア活動の紹介などがありました。

大府市は約 1800 人のボランティアが活動している。印象に残ったのは、ボランティアといえば定年後のつまり、第 2 の人生でするものと思われがちであるが、実際は大変でも現役のうちから始めるとよいという男性の報告であった。地域デビューを早くすればそれだけ知り合いも多くなる、ネットワークもできる。次に自分が何をしたいのか、何に適しているかなどを考える上で、失敗しても早く立ち直ることができるし経験にもなるということ。周知のように、女性の場合は友人、知人ができやすいのでボランティア活動も楽しみながらできる。

2月22日(土) ビデオ映画「二十四の瞳」を観る

あいち NPO 交流プラザ 午後 2 時～4 時 30 分

予定ではエンディングノートを書くの「資産・相続・遺言」の勉強会でしたが、この頃「戦争・平和について」が新聞紙上に多く載っているため、ビデオ鑑賞に変更しました。「二十四の瞳」は今から 60 年前の昭和 29 年制作で、場面は昭和 3 年から敗戦後数年まで。「七つの子」をはじめとして多くの童謡を島の子どもたちが歌うところは平和そのもの。言うまでもなく、平和に勝るものはないと痛感しました。内容については皆さんの方がよくご存知と思います。

2) 今後の予定

3月22日(土) お休み

4月26日(土) 第 15 回向老学会の準備

5月24日(土) " の反省など

6月28日(土) 資産・相続・遺言

7月26日、8月23日はお休み

9月27日(土) 資産・相続・遺言の意見交換

10月25日(土) 介護・介護保険の利用、リビングウィル(終末期医療)

11月22日(土) " の意見交換

12月27日(土) 葬式・お墓

1月24日(土) " の意見交換

2月21日(土) まとめ発表

変更する場合がありますので予めご了承くださいませようお願いします。なお、内容等につきましてご希望、ご意見をお寄せください。

【4】ニュースレター(NL)

本年度は 4 回発行しました。皆さんの投稿をぜひお願いします。内容・長さ・時期は問いません。

【5】学会誌「研考」15号へ投稿のお願い

研究論文、雑感、紀行文、読書感想文(本の紹介も可)、詩、俳句、川柳、短歌、日常の出来事などを事務局までお寄せください。

【6】事務局の交代

2014年3月末日で事務局の交代をします。私 柳澤つや子は10年ほど事務局を担当させていただきまして、会員の皆さまには大変お世話になりました。いたらねことも多くご迷惑をおかけしましたことをお詫び申し上げます。長いお付き合いを本当にありがとうございました。

このほど高橋信雄理事（高橋ファミリークリニック院長）のご好意で、NPO法人 ハートフル TF コミュニティの黒木智子さんがお引き受けくださることになりました。理事一同深く感謝しております。皆さまには今後も向老学会へご支援、ご協力をくださいますよう、よろしくお願い申し上げます。

【7】学会開催のチラシを同封しました。皆さまのお友だちやお知り合いの方たちに学会のご案内をしてくださいますようお願いいたします。チラシご要りの方は事務局へ申し付けください。

トークあれこれ

今年の初春は冬季オリンピックの話題で持ちきりでした。メダルの数はともかくも、当に人間の限界に挑んでいる姿は、畏敬の念を禁じえません。人間はとことんやれば驚くべき境地に達し得るものだと痛感しました。このことは何をしても自分の持てる力を精一杯発揮する事に尽きるようです。それは必ずしも世界一番で有るとは限りません。自分にとって一番かどうかだと思います。年齢・性別・健康・環境・遺伝等々、色々な条件があって、出来る事、出来る範囲は異なるものの、言い訳をしないで挑戦したいものだと思った次第です。

昔会社にいる頃、職場の皆さんと当時はやりの目標管理をしました。といっても身近な目標を掲げ、例えば「朝の体操を一生懸命にしよう」とか、「毎月貯金を決まった額をしよう」とかそういったことを掲げ、毎日チェックして歩きました。今でも何とか目標を掲げ継続していきたいものだと思っています。

（梅尾良之記 会員）

このところ新聞紙上では「戦争・平和について」が多い。朝日新聞一紙のみを購読しているので断定はできませんが、すでにご存知のように声蘭には「語りつぐ戦争」の掲載を毎月第3火曜日に行っている。投稿者の中の戦争体験者は70代後半から90代後半の方たちである。例年、戦争についての掲載は8月15日前後ころになっていた。

今年は敗戦後69年になる。私は1943年生まれで70歳になったばかりですから戦争のことは記憶にありません。しかし、敗戦後のことは物心がついてからですが、忘れられないことがたくさんあります。父方の伯父といとこ2人、母方の叔父2人の計5人が戦死してます。これは私の親戚だけのことでなく、親しい友だちの何人かの父親は戦死しており、父親の死後に生まれた、父親が戦地で会

ったことがない、母と面会に行っても覚えていないという人たちで、当然写真の父親しか知らない。多くの身近な人の死は国家総動員であったことを意味し、そのことを後に知る。

母や祖母から聞いた、母の末弟のことを語り継ぎたいと思う。叔父は20代前半にニューギニアで餓死した。戦地に赴くときに「自分には妻も子どももないから気が楽だ。思い残すことはない」と言ったそうです。そうなのです、漁師の叔父は恋をしなかったのです。愛する人との交際がなかったのです。叔父本人は「気が楽」だったかもしれませんが、母や祖母は「恋愛の経験もなく死んでいった。わずか20数年しか生きられなかった。なんのためにあの子は生まれてきたのだろうか」と、仏壇の前で何度も泣いていたのを私は記憶している。「なんのために生まれてきたのだろうか」という言葉を、私たちは映画やテレビなどでも何度も聞いている。親、妻、子ども、兄妹、恋人、友だちなど多くの人たちが、「戦争で死ぬために生まれてきたのではない」と数え切れないほど心の奥からそう思っただろうし、今も思っている人たちは多くいる。

祖母の顔は時々厳しくなることがあった。笑っているところをあまり見たこともなかった。叔父のことがいつも体から離れなっただのではと思われる。私が母に叔父のことをたずねるとすぐに泣き出して、ニューギニアでの餓死がどんなにつらいものか、こんなことはあってはならない、人間のすることではないと言って仏壇の前で手を合わせていた。また今の平和は戦争に行った（行かされた）人たちの贈り物だから、大事に守らないとね、そして二度と戦争はしてはいけないとも言っていた。

母の実家では叔父の名前を忘れ難く、愛おしく大切に思い、叔父の甥の子ども（私のいとこの子ども）にその名をつけた。もう母の実家では叔父を知る人はいないけれど、叔父を忘れない、戦争を忘れない、平和のありがたさ、尊さを守らなければならないことは語り継がれていると確信する。

拙い柳澤の文章で恐縮ですが、この紙面を借りて「平和を語りつく」のエッセイをリレーで書いていただけませんか。世の中の状況を見ておきますと、今こそ平和を守ることの重要性を感じています。字数など制限はありません。ご投稿をお待ちしております。

（柳澤つや子記 会員）

日本向老学学会 事務局
〒458-0002 名古屋市緑区桃山4-604
柳澤方 T/F 052-876-6962
e-mail tsuyakoy@juno.ocn.ne.jp
向老学会のHP <http://kourougaku.web.fc2.com>

事務局新住所

〒458-0826 名古屋市緑区平子が丘1503

高橋ファミリークリニック内 NPO法人 ハートフルTF コミュニティ

事務局担当 黒木智子 TEL 052-622-1131 FAX 052-622-1132

Mail: heartful.tf@gmail.com